

第2回 教員業績評価（平成23～25年度）の結果について

平成26年9月16日 大学評価委員会

平成23年に創立百周年を迎えた九州大学は、「教育憲章」、「学術憲章」に掲げる使命と理念を達成し、世界的研究・教育拠点として、次の百年に向けて知の新世紀を拓くべく教育、研究、診療等の諸活動を展開することを目標としています。

平成20年度から正式に開始した教員業績評価は、これらの目標を達成する方策の一つとして位置づけられています。その目的は主に二つあります。第一に、各教員が自己評価を通じてそれぞれの教育研究活動の現状を自ら把握し、改善向上の手掛かりとしていただくことです。第二に、部局の組織的活性化を図るため、部局長が部局内の教育研究活動状況を全体的に把握し、得られた知見を将来構想における諸施策に活用できるようにすることです。

評価の実施に際しては、大学全体の基本的枠組を設定した上で、部局ごとにそれぞれの専門領域や多様な事情に配慮した実施体制や評価方法を工夫できるよう配慮しました。

第2回目となる今回の評価は、「九州大学教員業績評価の実施について」（平成18年3月17日総長裁定）に基づいて実施しました。

評価の手順は、平成23年度当初に各教員が「教育」、「研究」、「国際交流」、「社会連携」、「管理運営」等の分野について、3年間の活動計画を示し、平成25年度の終了時に、当該計画の進捗状況について自己評価を行いました。併せて、上記の5分野については、分野毎に設けた評価項目毎に、分野別自己評価を行いました。

部局長又は部局の教員業績評価委員会等は、各教員の活動計画とその進捗状況を参考に、各教員が行った分野別自己評価の結果について、部局としての評価を行いました。

平成23～25年度の評価結果の主な状況は以下のとおりです。

1. 評価の実施体制

評価は、対象となる専任の教員（原則、大学評価情報システムに入力している教員）が所属する全部局において、部局長又は部局の教員業績評価委員会等において行われた。

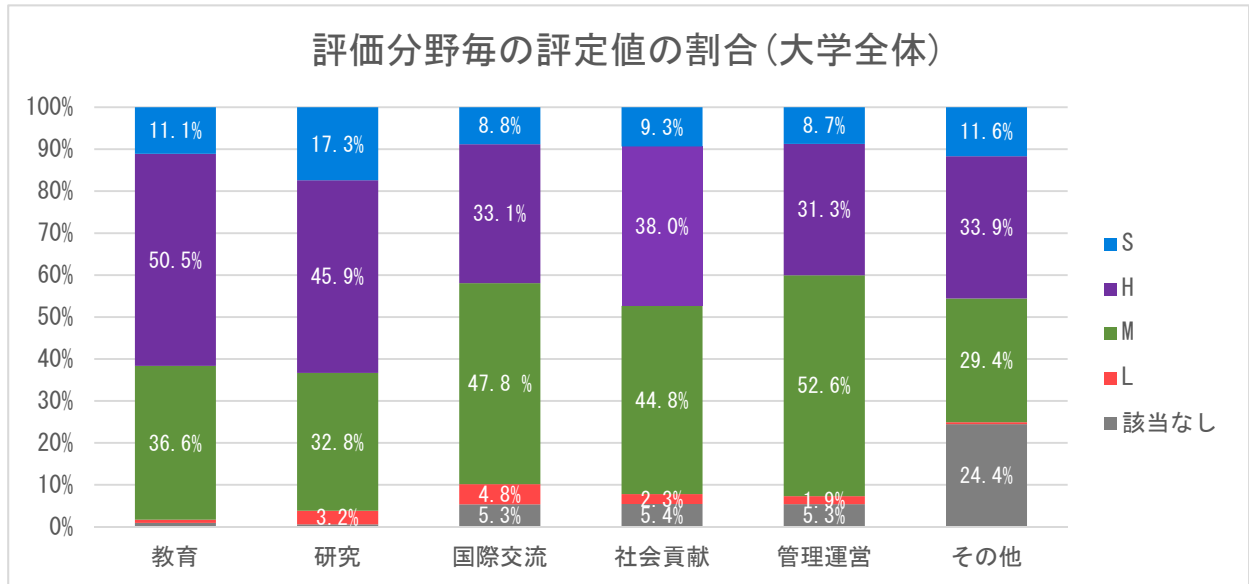
部局	部局数	評価実施体制（評価者）	
		部局長・執行部	委員会
基幹教育院	1	1	0
研究院	16	4	12
附置研究所	4	1	3
国際研究所	1	1	0
病院 附属図書館 記録図書館、教材開発センター 情報基盤研究開発センター	5	3	2
学内共同教育研究施設、推進室等	22	21	1
合計	49	31	18

2. 評価の実施状況

- 対象となる専任教員が所属する全部局において、全対象教員（2,035名）の評価が行われた。
- 評価にあたっては、全ての部局において「教員業績評価支援システム」が利用された。
- 各部局において、教員評価未実施（評価対象外）の主な理由は以下のとおりである。
 - ▶ 新規採用者、評価期間中の在任期間が短い者
 - ▶ 長期海外研修中、長期休職者、育児休業取得者
 - ▶ 寄附講座教員、学外からの期限付き出向者、招聘教員、特定プロジェクト教員

3. 評価結果の全体的状況

評価実施教員数 2,035名



【参考】 S 極めて高い活動状況である H 高い活動状況である
 M 普通の活動状況である L 低い活動状況である
 ※「該当無し」：評価分野のうち職務として携わっていない分野として
 計画書作成の段階で活動計画を記述しなかったもの

- 部局評価では、全分野において「H」及び「M」の割合が大半を占めている。
- 特に、「教育」と「研究」分野では、「S」及び「H」の割合が過半数を超え、高い活動状況にあることがうかがえる。
- また、「研究」分野においては、「S」の占める割合が他分野と比較して最も高く、「国際交流」、「社会連携」及び「管理運営」においては「該当無し」の割合が高い。
- 全体的な割合の分布は、第1回目に実施した評価結果とほぼ同じ分布となっている。

※「その他」とは、部局において個別に設定されている部局独自の評価分野を示す。

〈部局が独自に設定している評価分野例〉

・診療（医学研究院、歯学研究院、生体防御医学研究所、病院）	・その他（薬学研究院）
・入試業務（数理学研究院、マス・フォア・インダストリ研究所）	・センター業務（情報基盤研究開発センター）
・産学連携（産学官連携本部、産学連携センター）	・図書館業務支援（附属図書館）
・教育研究支援（総合研究博物館、中央分析センター）	・資料（附属図書館付設記録資料館）
・研究支援（研究戦略企画室）	・室業務（大学評価情報室）